

組織目標評価報告書（令和5年度）

19

部局名:

異分野基礎科学研究所

学域名:

—

部局長名:

沈 建仁

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	5-1 7-1 9-1	<ul style="list-style-type: none"> 所属コア以外の授業科目や実習科目を積極的に習得してもらった。コロナの影響がまだ残っていたが、7名の新生が異分野基礎科学コースに入学した。 コースの共通科目であるプレゼンテーション力やインターンシップを通して、学生のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させた。また、外国人特任教授による学生の研究指導を行い、英語による研究所セミナー(RIISセミナー)の開催・聴講により、英語環境での研究力向上に貢献した。 優秀な博士後期課程の大学院学生を非常勤研究員として9名雇用し、研究活動に集中できる環境を整え、研究を推進した。 大学間および部局間協定の締結を4件更新し、国際交流を積極的に行った。 国際シンポジウムやセミナーを積極的に開催し、それぞれの分野の最新の知識を習得するよう、学生の教育環境を改善した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	8-1 9-2	<ul style="list-style-type: none"> 物理学と基礎生物学を中心に研究支援を重点的に行い、成果を得た。 Nature誌の論文1報を含む、IF(インパクトファクター)10以上の高IF雑誌の論文14報を発表した。 国際構造生物学研究センターを設立し、クライオ電子顕微鏡を導入し、その稼働を開始し、岡山の構造生物学関連研究が一層進むための準備を整えた。 基礎研の研究者による英語のセミナー(RIISセミナー)や各研究グループの英語セミナーを実施し、研究活動の情報交換を活性化させた。 外国人教員の研究グループとRECTORプログラムの海外PIによる研究グループの研究環境整備を支援した。招聘したハーバード大学のドイル教授との共同研究は順調に進展した。 科研費申請書を添削や関連研究を支援し、特別推進研究1件、基盤研究S1件を始めとして、多くの外部資金を獲得し、研究を実施した。 地域中核大学推進事業(J-PEAKS)への申請を積極的に関与し、採択され、その一部を推進することになった。
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	8-1	<ul style="list-style-type: none"> 日本光合成学会会長、国際光合成学会アジア-オセアニア担当理事等各種学協会での役職や国際雑誌の編集委員等を担当し、学協会での当研究所のプレゼンスを向上させた。 企業等からの技術相談に積極的に対応し、また、国際共同研究を推進した。 有機化学に関する国際シンポジウムを岡山大学で開催し、各種国際学会・シンポジウム等で基調講演・招待講演を含む講演を行った。 編集委員として、6件の国際誌(Scientific Reports, Advanced Electronic Materials, Journal of the Physical Society of Japan, Physica A, International Journal of Molecular Science, Photosynthesis Research)の編集委員を務めている。 第65回東レ科学技術賞を受賞した。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	9-2	<ul style="list-style-type: none"> コア長会議による調整会議を適宜行った。研究所教授会は合計11回対面で行い、研究所の重要事項を議論・決定した。外国人特任教授が参加するため、会議はできるだけ英語で行い、外国人特任教授の研究グループ間とも情報共有は十分に行えた。 女性や外国人教員に必要な財政的支援を行い、研究活動や異分野融合研究を推進した。コア長会議や研究所教授会等において、日常的に研究所の提案・要望・問題点を共有した。 コンプライアンス教育などの講習会に参加し、オンラインでのコンプライアンス教育の受講を徹底した。コンプライアンスに関する問題が生じることはなかったが、いつでもオープンな議論ができるよう研究所の体制をコア長会議および研究所教授会を介して維持してきた。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

【続き】組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名:

異分野基礎科学研究所

学域名:

—

部局長名:

沈 建仁

(※該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	論文発表がやや低調でありますので、今後の取組を期待します。
対応状況	昨年度は論文発表数が直近数年間の平均より低かったため、今年度は多くの論文を発表するよう努力します。